

- 問1 13世紀後半に元（モンゴル帝国）を訪れたヴェネツィア出身の商人で、その見聞録の中で日本を「黄金の国ジバング」としてヨーロッパへ紹介し、後の大航海時代にも大きな影響を与えた人物は誰ですか。（2024年 愛媛県公立入試 類似）
1. マゼラン 2. ヴァスコ・ダ・ガマ 3. イブン・バットウータ 4. マルコ・ポーロ
- 問2 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所や寺社の門前などで特定の日に開かれる定期市が盛んになりました。この時期の貨幣経済の状況について述べた文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2020年 滋賀県公立入試 類似）
1. 和同開珎などの国産貨幣が大量に鋳造され、地方の定期市における納税の手段として一般的に用いられた。
2. 物価の安定を目的として、幕府によって貨幣の私的な利用が禁止され、米や布による物々交換が主流となった。
3. 日本独自の貨幣が鋳造されなかったため、宋銭や明銭といった中国から輸入された貨幣が広く流通した。
4. 五街道の整備に伴い、金座や銀座でつくられた金銀貨が全国的な統一通貨として流通するようになった。
- 問3 後醍醐天皇と足利尊氏の対立に端を発する「南北朝時代」の始まりについて述べた文として、最も適切な背景を説明しているものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）
1. 建武の新政において公家が優遇され、恩賞などに不満を持った武士たちが足利尊氏をリーダーとして反旗を翻したこと。
2. 平氏を滅ぼした源頼朝が鎌倉に幕府を開いた際、朝廷の権力行使を制限するために、吉野に別の天皇を置くよう命じたこと。
3. 織田信長が室町幕府を滅ぼした後、豊臣秀吉が京都の朝廷とは別に、奈良に独自の政権を樹立しようと企てたこと。
4. 元寇（モンゴル人の襲来）の恩賞が十分でなかったため、北条氏を倒した足利尊氏が南方の領土を守るために朝廷を分けたこと。
- 問4 室町時代に、田楽や猿楽を母体として、観阿弥・世阿弥の親子によって大成された伝統芸能は何ですか。（2019年 岩手県公立入試 類似）
1. 狂言 2. 歌舞伎 3. 人形浄瑠璃 4. 能
- 問5 室町幕府において、細川・斯波・畠山の三家が交代で「管領」という役職に就いた理由や、その役割について説明したものとして最も適切なものを選択してください。（2024年 滋賀県公立入試 類似）
1. 東国の統治を目的として鎌倉に設置された機関を指揮・監督するため
2. 天皇の補佐として朝廷の儀式を主導し、公家と武士の融和を図るため
3. 有力な守護大名の勢力を幕府の中核に取り込み、将軍を補佐して幕政を安定させるため
4. 地方で反乱を起こした守護大名を処断し、将軍の独裁権を強化するため
- 問6 室町時代に足利義満が再開した日明貿易において、日本側がとった対外的な姿勢とその背景について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2024年 福井県公立入試 類似）
1. 朝鮮半島での利権をめぐる明と対立したため、宗教的な結びつきのみを重視し、経済的な交流を一切断つ姿勢をとった。
2. 明の皇帝と対等な立場での国交を求め、武力を背景にして、勘合を用いない自由な貿易路を確保しようとした。
3. 明の皇帝に対して臣下の礼をとる「臣従」の形式（朝貢）をとり、日本国王の称号を得ることで、貿易の利益とともに国内での将軍の権威を高めようとした。
4. 倭寇の活動を支援する立場から、明の皇帝に対しては独立した国家であることを宣言し、朝貢の形式を拒否し続けた。
- 問7 琉球王国が行っていた貿易の仕組みと、その背景について説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 群馬県公立入試 類似）
1. 中国から輸入した生糸や絹織物を、国内の需要を満たすためにすべて自国内で消費し、海外への販売を禁じた。
2. 幕府から朱印状を与えられた商船が、東南アジア各地に日本人町を建設して直接取引を行うことを目的とした。
3. 鎖国体制下の長崎において、清やオランダとの限定的な取引を仲介することで独占的な利益を上げた。
4. 日本や朝鮮、東南アジアなどの各地から集めた産品を、中国など別の地域へ販売することで大きな利益を得た。
- 問8 15世紀後半から16世紀にかけての京都では、商工業者が中心となって都市の自治が行われていました。当時の様子を説明した文章の中で、彼らが再興させた伝統行事として触れられることの多い祭礼はどれですか。（2022年 徳島県公立入試 類似）
1. 葵祭 2. 時代祭 3. 祇園祭 4. 天神祭
- 問9 室町時代に行われた日明貿易において、正式な貿易船であることを証明するために用いられた、縦長の紙に「日本」や「国王」などの文字が記され、中央で二分割された割印付きの証明札を何と呼びますか。（2020年 福岡県公立入試 類似）
1. 御朱印状 2. 印判状 3. 勘合（勘合符） 4. 割符
- 問10 室町時代の京都では、幕府が土倉（金融業者）や酒屋から税を徴収して大きな収入を得ていました。このような背景の中、京都の豊かな商工業者たちが団結し、応仁の乱のあとの復興や町の運営を自治的に行った組織または人々を何と呼びますか。（2020年 徳島県公立入試 類似）
1. 惣 2. 町衆 3. 座 4. 問丸
- 問11 「二条河原の落書」には、当時の京都で「綸旨（りんじ）」が乱発され、社会が混乱している様子が記されています。この「綸旨」とはどのようなものですか。その性質として正しい説明を選びなさい。（2021年 和歌山県公立入試 類似）
1. 後醍醐天皇が自らの意向を直接伝えるために出した命令書
2. 平氏が貴族の反乱を抑えるために出した軍事的な指令
3. 鎌倉幕府の執権が武士の土地裁判のために定めた法律
4. 室町幕府が借金を帳消しにするために出した法令
- 問12 室町時代に大きな力を持っていた「座」による商売の独占は、戦国時代になると経済の活性化を妨げる障壁と見なされるようになりました。織田信長らが城下町の繁栄を目指して実施した、座の特権を廃止し自由な取引を認める政策を何といいいますか。（2023年 三重県公立入試 類似）
1. 寛政の改革 2. 十七条の憲法 3. 楽市令（楽市・楽座） 4. 株仲間の結成
- 問13 室町時代、足利義満などの将軍から厚い保護を受けたことで、観阿弥・世阿弥の親子が芸術性の高い舞台芸術へと発展させた伝統芸能を何といいますか。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
1. わび茶 2. 歌舞伎 3. 能 4. 人形浄瑠璃
- 問14 日明貿易（勘合貿易）において、日本側の主な輸出品の組み合わせとして、適切なものはどれですか。（2020年 三重県公立入試 類似）
1. 銀・鉄砲・キリスト教関連品 2. 生糸・絹織物・陶磁器 3. 香料・砂糖・象牙 4. 銅・刀剣（日本刀）・扇

答え合わせ・解説

問1	答え 4 マルコ・ポーロ	ヴェネツィアの商人であるマルコ・ポーロは、元の皇帝フビライ・ハンに仕えた際の見聞を『東方見聞録（世界の記述）』としてまとめました。この著書の中で、日本は宮殿や民家が黄金でできている島国として紹介され、当時のヨーロッパの人々に東洋への強い関心を与えました。
問2	答え 3 日本独自の貨幣が鑄造されなかったため、宋銭や明銭といった中国から輸入された貨幣が広く流通した。	中世の日本では政府による貨幣鑄造が行われなかったため、日宋貿易や日明貿易を通じて流入した中国の貨幣（宋銭・明銭）が国内の取引で利用されました。農業生産力の向上や手工業の発達を背景に、月3回開かれる三斎市から月6回開かれる六斎市へと定期市の回数が増え、貨幣経済が農村部まで浸透していきました。
問3	答え 1 建武の新政において公家が優遇され、恩賞などに不満を持った武士たちが足利尊氏をリーダーとして反旗を翻したこと。	後醍醐天皇が目指した理想的な天皇親政（建武の新政）は、土地の所有権の確認が遅れたり、武士よりも公家を重用したりしたため、倒幕に協力した武士たちの期待を裏切るものでした。この混乱の中で、武士の利益を代表する立場となった足利尊氏が離反し、京都の朝廷（北朝）を擁立しました。これに対し後醍醐天皇が吉野（南朝）で正当性を主張したため、約60年に及ぶ内乱へと発展しました。
問4	答え 4 能	観阿弥と世阿弥は、室町幕府の第3代将軍である足利義満の厚い保護を受け、それまで行われていた芸能を芸術性の高い舞台芸術へと高めました。これが今日の伝統芸能である「能」の形となりました。選択肢にある「歌舞伎」は江戸時代初期に始まった芸能であり、混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 3 有力な守護大名の勢力を幕府の中枢に取り込み、将軍を補佐して幕政を安定させるため	室町幕府は有力な守護大名の連合体という側面が強く、特定の家系（三管領）が交代で管領を務めることで、幕府内での権力のバランスを保ちつつ、将軍の補佐を通じて全国の守護への統制を維持しようとしていました。これにより、初期の幕府運営の安定が図られました。
問6	答え 3 明の皇帝に対して臣下の礼をとる「臣従」の形式（朝貢）をとり、日本国王の称号を得ることで、貿易の利益とともに国内での将軍の権威を高めようとした。	足利義満は、明との正式な貿易を開始するにあたり、明を中心とした国際秩序に組み込まれることを選択しました。具体的には、明の皇帝に対して臣下としての礼をとる「臣従」の形式（朝貢貿易）をとり、自らを「日本国王」と称しました。これにより、明から正式な貿易の許可を得て莫大な利益を上げると同時に、中国の皇帝から認められた統治者としての地位を、日本国内の守護大名などに対する権威付けに利用しました。
問7	答え 4 日本や朝鮮、東南アジアなどの各地から集めた産品を、中国など別の地域へ転売することで大きな利益を得た。	琉球王国は、中国（明）との朝貢関係を維持しながら、日本や朝鮮、東南アジアを結ぶ「万国津梁（世界の架け橋）」としての役割を果たしました。中国が求める日本産の刀剣や東南アジア産の香料などを調達し、それらを中国へ運ぶ一方で、中国の高度な文化産物を各地に届けるという、産品の転売を中心とした国際的な商業ネットワークを構築していました。
問8	答え 3 祇園祭	応仁の乱で中断を余儀なくされていた祇園祭を、1500年（明応9年）に復活させたのは京都の町衆たちでした。彼らは経済力を背景に、山鉦巡行などの華やかな祭礼を支えることで、京都の文化的な活気を取り戻そうとしました。
問9	答え 3 勘合（勘合符）	室町幕府の足利義満によって始められた日明貿易では、当時東アジアの海域で活動していた海賊である倭寇と、幕府が公認した正式な貿易船を区別する必要性がありました。そのため、明の皇帝から発行された証明札を半分に切り分け、日本側と明側で照合する仕組みが採用されました。この証明札を勘合（勘合符）と呼ぶことから、この貿易は勘合貿易ともいわれます。
問10	答え 2 町衆	京都の富裕な商工業者は「町衆」と呼ばれ、強い連帯感を持っていました。彼らは応仁の乱で荒廃した京都の街を自分たちの力で復興させ、自治組織を運営したほか、祇園祭の再興などの文化的な活動にも大きな役割を果たしました。「座」は商工業者の独占的な同業者組合を指し、町衆はその構成員でもありましたが、都市の自治主体としての呼称は町衆が適切です。
問11	答え 1 後醍醐天皇が自らの意向を直接伝えるために出した命令書	建武の新政において、後醍醐天皇はそれまでの先例や慣習を否定し、すべての物事を天皇の直接の意志である「綸旨」によって決定しようとしていました。しかし、土地の所有権などをめぐって内容の矛盾する綸旨が次々と出されたことが、武士たちの大きな混乱と反感を買う原因となりました。
問12	答え 3 楽市令（楽市・楽座）	織田信長は城下町の経済を活性化させるため、従来の「座」による販売の独占権や特権を否定しました。これにより、座に属さない新しい商人の参入を促し、市場での自由な取引を認める「楽市・楽座」の政策を推し進めました。これは旧来の特権階級である寺社などの経済基盤を弱める狙いもありました。
問13	答え 3 能	観阿弥・世阿弥の親子は、それまでの猿楽などを洗練させ、現在の形に近い「能」として大成させました。時の権力者である足利義満が彼らの才能を認め、幕府の保護を与えたことが、この芸能が独自の美意識を持つ芸術として確立される大きな要因となりました。
問14	答え 4 銅・刀剣（日本刀）・扇	当時の日本は、豊かな鉱物資源を背景とした銅や、高い工芸技術で作られた刀剣、扇などを明に輸出していました。特に刀剣は明で高い評価を受け、大量に輸出されました。選択肢にある「生糸」や「絹織物」、「陶磁器」は当時の日本が明から輸入していた代表的な品目であり、輸出品と混同しないよう注意が必要です。